

「民進党代表選挙」に関する談話

ものづくり産業労働組合JAM
書記長 河野 哲也

1. 第24回参議院選挙の結果から民進党は、自公政権の批判の受け皿になりきれしていない。今回の民進党代表選挙は、有権者に民進党の考え方を伝える絶好のチャンスとしてとらえなければならない。9月2日告示、9月15日投票で実施される民進党代表選挙の立候補届の結果、届け出順に蓮舫、前原 誠司、玉木 雄一郎の3氏が立候補の届け出をされ、民進党代表選挙管理委員会が確認、受理した。
 2. 今回の代表選挙は、所属国会議員、党员・サポーターによる投票をポイント換算して各候補に割り振り、最もポイントを獲得した候補者が9月15日開催の臨時民進党大会で代表に選出されるが、民主党と維新の党が合流して民進党の結党大会（2016年3月）を開催して以降、初めての代表選挙となる。
 3. JAMは、健全野党の民進党を支持する。このことから、今回の民進党代表選挙については、党员・サポーターに登録している組合員の棄権がないように要請する。
 4. JAMは、今回の民進党代表選挙が国会議員だけでなく、党员・サポーターの意見まで反映される仕組みで実施されることを評価するとともに、国民全体の期待が民進党へつながることを確信し、「民進党参議院比例区第2総支部（津田やたろう総支部）、民進党参議院比例区第17総支部（藤川しんいち総支部）」を通じて、党员・サポーターに登録されている皆さまに対し、JAMとしての民進党代表選挙に対する以下の考え方を示すこととする。
- 民進党色をより鮮明にするためにも、民主党と維新の党の結党による民進党が、二大政党的体制を目指すイメージを世論に訴えかけることが出来ること。
 - 民進党代表は、「穏健中道」の旗を掲げ国民の常識を受け止める政党として再生するためのリーダーであること。
 - 民進党は健全野党として、政府・与党をチェックする役割が必要であり、今こそ国民が政治に関心を持ち、政党に国民の思いを受け止めてもらうためにも、政府・与党を追求し問いただす政党として活動できるリーダーであること。
 - JAMは、働くことを軸とする安心社会の実現のために民進党が政権政党となることを望む。このことから、民進党代表選挙により選出される代表は、新生民進党のリーダーとしてふさわしい方であること。

以上